

第8回

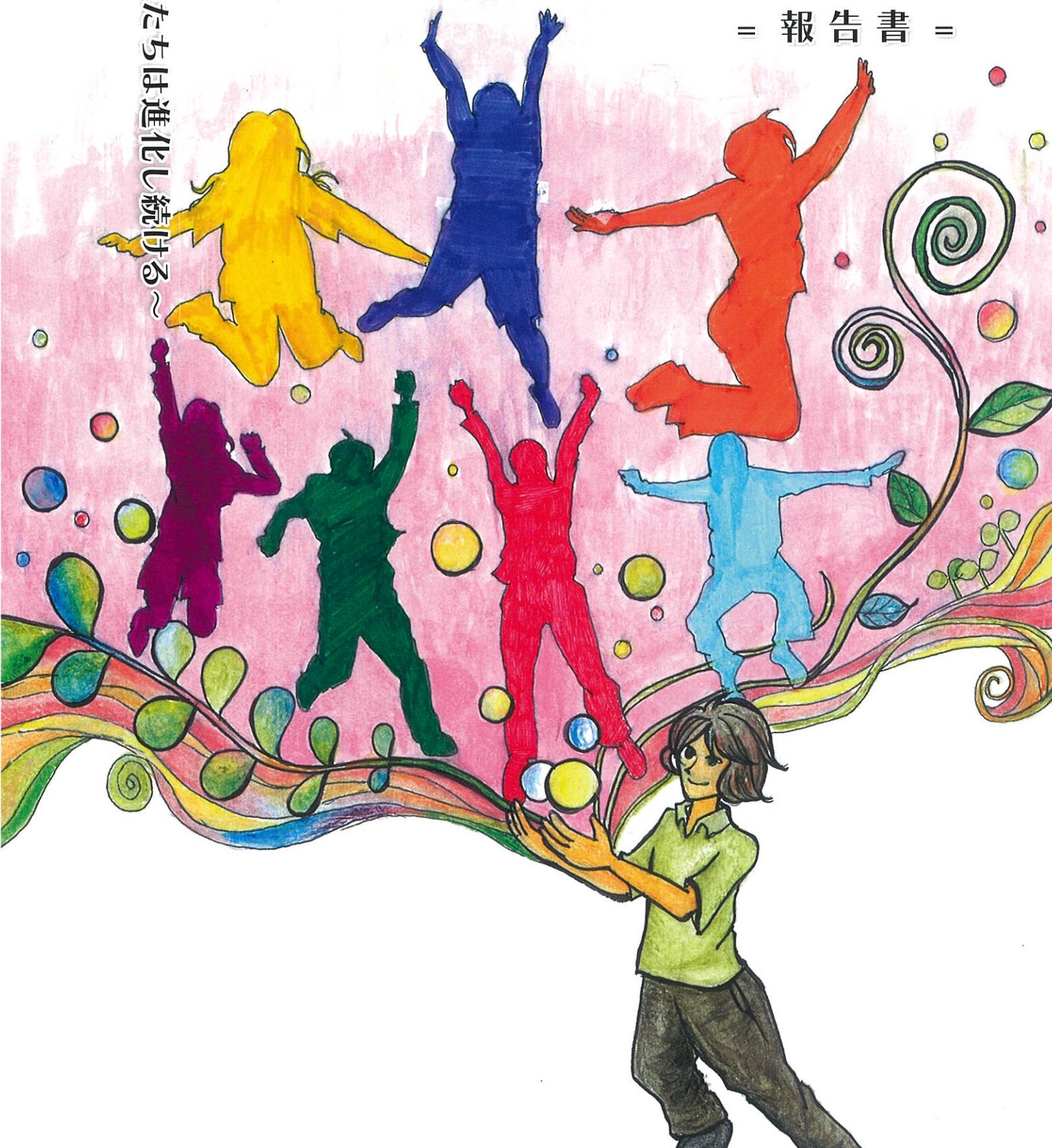
# 国際ボランティアワークキャンプ

8th International Volunteer Work Camp

in ASO

= 報告書 =

の可能性～私たちは進化し続ける～



# Contents

- 02 目的／概略
- 03 スケジュール
- 04 オープニング 基調講演  
アイスブレイク
- 05 第1分科会（食料問題）  
第2分科会（自己表現）
- 06 第3分科会（多文化共生）  
第4分科会（教育）
- 07 第5分科会（国際ボランティア）  
第6分科会（地域おこし）
- 08 第7分科会（食育）  
未来職道
- 09 全体報告会  
SmileStation
- 10 留学生からの声
- 11 アンケート報告

# 世界の友達と ボラキャンで出逢い



かけがえのない  
絆が生まれ

∞の可能性が  
虹の架け橋のように  
伸びていく

## 目的

### 高校生、大学生等、 「若い人材」の「生きる力」を育む。

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営するワークキャンプを阿蘇の大自然の中、2泊3日の宿泊型で計画・実施しました。

本ワークキャンプへは76名の高校生、26名の留学生、および日本人大学生がセンターとして参加しました。分科会活動等様々な活動をとおし交流、お互いを理解、「思い」を共有し、日ごろの生活の中で活かせるボランティア活動の取り組みに結びつけていくことができました。

第8回となる本年度のボラキャンでは、「∞（むげんだい）の可能性～私たちは進化し続ける～」をテーマに参加した高校生自身とボラキャンの今後への期待が込められています。

## 概略

[実施年月日]

2013年9月14日(土)～16日(月)2泊3日

[実施会場]

国立阿蘇青少年交流の家

(〒869-2692 熊本県阿蘇市一の宮宮地6029-1)

[参加者]

102名

(一般高校生59名、高校生実行委員(EC)17名、留学生26名)

[主催]

国際ボランティアワークキャンプ実行委員会  
(EC及び構成団体については、最終ページに記載しています。)

[後援]

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

熊本日日新聞社

# Schedule

9月14日(土)

- |   |  |
|---|--|
| <b>9:30</b> 熊本市国際交流会館 出発<br>(専用貸切バス)            | <b>17:00</b> 夕べの集い<br>(第7分科会は分科会活動に移動) |
| <b>11:20</b> 国立阿蘇青少年交流の家<br>到着                  | <b>17:30</b> 夕食                        |
| <b>11:45</b> 入所オリエンテーション                        |  |
| <b>12:00～13:00</b> 昼食                           |  |
| <b>13:00</b> 開会式                                |  |
| <b>13:30</b> 基調講演                               |  |
| <b>14:30</b> アイスブレイク<br>「ボラキャン○×クイズ」<br>「SHARK」 | <b>21:00</b> 入浴                        |
|   | <b>22:30</b> 就寝                        |

9月15日(日)

- |  |  |
|--|--|
| <b>6:30</b> 起床                                       |  |
| <b>6:50</b> 清掃                                       |  |
| <b>7:15</b> 朝の集い／朝の散歩                                |  |
| <b>8:00</b> 朝食                                       |  |
| <b>9:00～17:00</b> 分科会                                |  |
| <b>17:00</b> 夕飯・入浴                                   |  |
| <b>19:00～21:00</b> 未来職道<br>(いろんな活動家と出会い・話し合う!) 8団体出展 |  |
| <b>22:30</b> 就寝                                      |  |

9月16日(月)

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| <b>6:30</b> 起床              | <b>13:00～14:00</b> 昼食<br>(阿蘇草千里にてお弁当)   |
| <b>6:50</b> 清掃              | <b>14:00</b> 阿蘇 出発(専用貸切バス)  |
| <b>7:15</b> 朝の集い            | <b>15:30</b> 熊本市国際交流会館到着<br>(解散)  |
| <b>8:00</b> 朝食              |   |
| <b>8:45～10:45</b> 報告会       |   |
| <b>11:00～11:30</b> 閉会式      |   |
| <b>12:00</b> 国立阿蘇青少年交流の家 出発 |  |



## 未来職道協力者(敬称略)

- 国際協力 :** 大野章子、河野菜津子(JICA関係)、  
岩坂省吾(フリーザチルドレン)、  
竹村朋子(外国から来た子ども支援ネット)
- N G O :** 宇野萌莉、大野拳(HABITATAPU)、  
宋宇蘭、永井真理子(Blue Sky Project APU)
- 地域創造 :** 徳永美紀(阿蘇ジオパーク推進協議会)
- 国際交流 :** 留学生(APU)
- アドバイザー :** 興梠寛(昭和女子大学)
- 事務局 :** 徳淵健一  
下田隆文(熊本市国際交流振興事業団)

## オープニング 基調講演 興梠寛氏（昭和女子大教授）

## 「未来のためにいまを生きる ‘Make a difference’」 報告者：福山優香里（熊本高校）

第8回国際ボランティアワークキャンプinASOを開催するにあたり、第1回からこの活動へ協力をいただいている昭和女子大学教授の興梠寛先生より参加者へ向けて基調講演がありました。先生の話では「ボランティア」とは、いつでも、だれでも、どこでもできるものであり、またそのようでなければなりません。なぜなら、ボランティアは、自分たちの意思で世界を変えることができる、すべての人に与えられる権利だからです。

たとえば、ボランティアは、健常者と障がい者では、障がい者はボランティアをされる側で、健常者がボランティアをするものだと考えてしまいますが、実際は障がい者（つまりは当事者）によっても世界は変えられるのです。

また、自分は何者なのか、何ができるのか、何が求められているのか、というような問いは、本を読んで答えを見つけ出そうとしても、読めば読むほど迷ってしまいます。そんな時は、実際に行動してみることが大切です。つまり、ボランティアをすることで、自分が何者で、自分はどういう人を助けることができて、また世界で必要とされていることが何なのかが分かるのです。

次のようなお話を強く心に残っています。

「世界を100人の村にたとえれば、高等教育機関で学ぶことができる人は、たったの1人です。あなたは、その1人なのです。その世界の現実の中で、私たちはだれのために学ぶのでしょうか。あなたは自分のためだけに学びますか、それとも…99人のために学びますか？」

自分に何ができるのかを探したりできる活動として、「ギャッパー」という制度が広がっています。大学入学後、1年間、自分が自由に使える隙間の時間をつかって、ボランティアをしたり、趣味を深めたり、就労体験をして、社会を知り自分を見つめることができる制度です。

ほかにも、ボランティアの必要性について、このようなお話をありました。

「世界にはまだまだ、物質的にも精神的にも飢餓の状態である人が大勢います。

貧困によって命を落とす人、1億5千万人のストリートチルドレン、2億4500万人が児童労働をしていて、その中には、親の借金を返すために働く子どももいます。このような人たちは、行政だけに頼っていても減ることはできません。ボランティアによって、命を守り、希望を持って生きていけるようにしていくことが必要なのです。」

小説家のジョン・スタインベックの言葉に「少年は必要とされたとき、はじめて大人になる」があります。

講演の最後に、先生は次のようにおっしゃいました。

「人はかけがえのない存在として認められ、自分の役割を実感できたときどんな人間になりたいのかが見えてくる。大切なことはとてもシンプル。それは…勇気を出して実行すること！」

これらの言葉を胸にしっかりと受け止め、私たちはその後の2泊3日のプログラムを過ごしました。



## オープニング 全体アイスブレイク

## 「高校生クイズ＆ハロウィンゲーム」

## 報告者：田代智也（宇土高校）

基調講演の後は、参加者の緊張を解きほぐし、活動的な3日間にするためにアイスブレイクとして、グループ対抗で、「高校生クイズ」と、「ハロウィンゲーム」を行いました。

前半はグループ対抗での高校生クイズということで、○×クイズ形式で、ボラキャンについての問題や、熊本県や阿蘇のご当地問題、またボランティアに関する問題など、様々な分野の問題を取り入れ、その場で集まつた6人のグループごとに○か×を選んでもらいました。日本語で説明するのも少し難しいような問題もありましたが、参加者が話し合いながら考えていく様子もみられて、よい交流になったのではないかと思います。

後半は、「ハロウィンゲーム」を行いました。参加者は1チーム15人ほどに分かれてもらいます。そして6名の実行委員(以下EC)が、ちょっと早めのハロウィン仮装でゴーストになって、「Children, children,

cross my garden!」と言って追いかけるので、参加者のみなさんはゴーストから逃げて、必ず別の安全な場所に移動しなければならないというものです。徐々にルールが分かるにつれて、皆さん全力で次から次へと移動ていき、会場には多くの笑い声と、ちょっぴりさけび声?も、響いていました。その場で作ったグループとはいえ、自分のグループが勝つととてもうれしく、みんなで祝福しあっていたようでした。

どちらのアイスブレイクも分科会ごとではなく、全体で混ぜて行ったことで、ボラキャン参加者全体として交流が深まったと思います。

すべての参加者の積極的な参加のおかげで、アイスブレイクを楽しく、スムーズに進めることができました。ほんの2時間の活動でしたが、会場は“infinityのエネルギー”にあふれていました!



## 「食料問題」

第1分科会では、世界中でおきている食料問題の現状を知り、さまざまな着眼点から改善策を講じようと考えました。

1日目は、アイスブレイキングとして「よろしくゲーム」というものを行い、その後は食料問題を考えるきっかけとなる各国の食事について考えました。実際には、さまざまな国や地域の一週間分の食事を撮った写真を、量や加工品などの観点から比較して、最終的にはどのような食事が理想的であるかを考えました。

2日目は、初めに基礎知識の確認として世界人口や飢餓人口、飢餓の原因などについて紹介しました。次に、アーモンドチョコレートやカップヌードルを例に、日本で売られている加工品がどのような国から輸入されているのかを考えました。これは、当たり前のように食べているものが作られている背景には貧困国の厳しい環境下での労働や莫大な資源の消費があ



## 「自己表現」

みなさんは夢をもっていますか？自分自身を理解していますか？

両者をしっかり認識していれば、夢を現実のものにするために、自分が今、何をすべきかが分かり、また人生設計もできます。私たち第2分科会では、人生設計をするために、「夢を持つ」というテーマのもと分科会活動を行いました。

一日目は、お互いのことを知るために自己紹介を兼ねたアイスブレイクをしました。そこで、夢を持つためには自分は何が好きで、何が得意なのかという自分の見直しが必要だと気付きました。だから、自分しか知らない自分や相手しか知らない（自分では気づいていない）自分を再認識するために、掲示板に相手に対して思ったこと、感じたことを書いて貼ることにより、「自分」を再認識することができました。

二日目は自分を見直すための情報を増やすために、少人数



るということや、食べ物を簡単に廃棄する日本で、今私たちがしなければならないことはなにかということを考える第一歩になりました。そして、ODAやJICA、NGOなどの国際貢献活動内容にも触れて世界では食料問題にどう取り組んでいるのかを学びました。

今回は、留学生の皆さんが現地の状況や政策、食料問題について語ってくださったこともあり、新たな情報の共有や、さまざまな価値観を持つ人同士の意見交換が行えて、参加者の皆さんの食料問題に対する意識改革につながりました。最終的に私たちがすべきことは、食料問題に関する啓発、無駄な消費の削減、食料ドナーなどにまとまりました。参加者の皆さんには、食料問題について考える機会を増やす一助になってもらえたうれしいです。



の班に分かれてさまざまなテーマのもと、ディスカッションを行いました。その後、自分用の掲示板を参考にワークシートを使い、夢を発表しました。最後に、その夢を叶えるための人生設計をして、今何をすべきか考えました。

報告会で発表するために、みんなの夢を貼った「夢ボード」を作りました。貼った自分の夢の周りに、ディスカッションで相手の夢への思いを知っている第2分科会のみんなからの応援メッセージを書きました。

夢を見つける以外にも今回やった方法を応用してもらえたなら、うれしいです。読んでくれた皆さんも、ぜひ、この方法で楽しくいろんなことを発見してみてください。



## 第3分科会 参加者 17名

### 「多文化共生」

第3分科会では、他の国の言葉や文化などを理解し、認めていくにはどうしたら良いかを学ぶために、様々な活動をしました。

1日目は、最初にジェスチャーゲームで、アイスブレイクをしました。このゲームの目的は、周りの人と言葉が通じない不安や心細さを理解することでした。ジェスチャーだけで、気持ちなどを伝えることは、とても大変でしたが皆で楽しむことができたと思います。アイスブレイクの後には、エスニックジョークについて学び、他の国に対して持っている先入観などが、偏見につながっていくのだと分かりました。

2日目の分科会では、最初に異文化体験として、竹の子ニヨッキというゲームを、中国語を使ってやりました。次に、自分1人で中国の学校に転校したという設定で、中国出身の実行委員が簡単な算数の授業をしたり、中国語で話しかけたりしま

報告者：甲斐理紗子（熊本高校）

した。何を話しているのか分からないので、「怖い」、「この中で一日中過ごすのは辛い」という意見が多くありました。この活動で、何も分からぬまま日本にやって来た外国人の気持ちを、多くの参加者が模擬体験し、理解できたと思います。また、その後にはそれぞれの国の文化や学校の制度について学び、日本との違いに多くの参加者が驚いていました。

最後に、日本では考えられないことが、外国では普通だったり、またその逆だったりすることがたくさんあります。そんな中で相手の文化について知り、また知るだけでなく理解し尊重していくことが大切なのではないかと思います。そうすることで、多くの違う言語、文化を持つ人々と、同じ社会の中で生きていくこと、つまり多文化共生ができると思います。



## 第4分科会 参加者 12名

### 「教育」

学生にとって身近な話題だと思われる「教育」。色んな国の教育制度を知り、より広い視点で教育について考えたいと思い、この分科会が生まれました。

1日目は、まずみんなの名前を覚えたり、分科会内での雰囲気を和らげるために、「何でもバスケット」などのゲームをしました。その後にスイス、ニュージーランドなどの他国の教育制度についてクイズを交えて学びました。

2日目は、ドイツとフィリピンの教育制度についての話があり、その後カンボジアでボランティア教師として働いていたJICA九州の方の体験発表をお聞きして、その国の教育事情や日常生活について学びました。貧しくてなかなか教育が受けられない子供たちがいることを知って、私たちがこうして普通に学校に行ける環境にいるということの大切さを感じました。そして、日本の教育制度の特徴を挙げ、他国と日本の教育制度

報告者：門岡由起（済々黌高校）

を比較しました。それを踏まえて、グループに分かれて「先進国においての教育問題」と「発展途上国においての理想の教育制度」について考えて大きな紙にまとめました。最後に、「何のために勉強しているのか?」という学生の疑問に答えるために、私達日本の高校生と留学生が熱く現在の日本の英語教育と数学教育についての意見を出し合って、話がとても盛り上がりいました。

あっという間の3日間でしたが、「教育」という難しいテーマについて話し合いましたが、今回この分科会に参加したメンバーが少しでも「今、学ぶこと」の意味を理解していただけたら嬉しいです。



## 第5分科会 参加者 15名

### 「国際ボランティア」

第5分科会では「国際ボランティア」を通して、主に「児童労働」について考えました。

1日目は何種類かのアイスブレイクをし、これからの分科会で発言しやすい環境づくりに取り組んだあと、児童労働カードゲームをしました。児童労働カードゲームでは、「家族から離れ、路上で1人で生活しなければならない子どもたち」という状況となり、自分が引いたカードの内容に応じて人生が変わっていくという模擬体験を行いました。児童労働をしている子どもたちを今までよりも身近に考えることができました。1人1人が真剣に取り組んでおり、様々な意見や感想がでたのでとてもよかったです。

2日目は屋外でのウォーミングアップの後、ウェビングや「FreeThe Children Japan 熊本支部」を立ち上げられた津田美矩さんの講話を通して、1日目よりも詳しく児童労働について学び、考えました。次に、その考えを生かし、「貧困の輪」について考えました。貧困を引き起こす原因を分科会のみんなで意見を出し合い、貧困を中心とした1つの輪を作りました。どこを断ち切れば貧困は解消できるのか、どのような支援をすれば

報告者：竹下美鈴（第一高校）

いいのか、たくさんの意見を出し合い、貧困は1つの原因を断ち切るだけでは解消できる問題ではないということが分かりました。最後に、2日目に行った様々な活動を元に「Action Plan」を作りました。この分科会活動で学んだことを今後どう生かすのかを「Gift(好きなこと、得意なこと) + Issues(問題) = Change!(ActionPlan)」という方法で出し合いました。それぞれが出したActionPlanを実行し、小さなことからでもなにかを変えることができるといいなと思います。

第5分科会ではこの3日間を通して、それぞれの考えを深めることができました。たくさんの意見を出し合えたのは、全ての活動を机の上でなく、床の上で行うというユニークな工夫があったからではないかと思います。参加者の皆さんもオブザーバーの先生方や大学生センターの皆さんも実行委員も、みんなが同じ目線の高さで活動を行い、とてもいい活動ができました。この分科会で深め、磨き上げた学びを今後の生活に生かしていく約束し、分科会活動を閉じました。充実した活動ができました。私たちを支えてくださった全ての方々に感謝します。ありがとうございました。



## 第6分科会 参加者 14名

### 「地域おこし」

第6分科会では様々な活動を通じて、地域おこしとは何かを知り、地元の町のために何ができるかを考えました。

1日目は、アイスブレーキングで「人間知恵の輪」をやりました。また、会場が阿蘇ということもあって、阿蘇ジオパーク推進協議会の方に来てもらい、阿蘇についてお話を聞いていただいた後、2日目のプレゼンテーションに備えて、身近なものを分かりやすく紹介する練習もしました。とても盛り上がり、初対面の人とも打ち解けることができました。

2日目は、阿蘇の門前町という地域おこしに積極的に取り組んでこられた商店街の方からお話を聞いて、門前町の歴史や変化、地域おこしの取り組みなど学びました。その後、実際に

報告者：植田伊和（熊本北高校）

門前町を訪れ、写真を撮ったり、メモを取ったり、現地の人と話したりして取材を行いました。午後からは、その取材を基に、具体的なアイデアを考えました。写真を分類し、その周りにふせんでキーワードを貼り、そこから、いいところや、改善点などを探し、新たな地域おこしのアイデアをカードに書きました。具体的には落ち葉の清掃やごみ箱の設置、ホームページを作るなどのアイデアが出ました。審査していただく中で、地域おこしはいろいろな面を考えないといけないことがわかり、そして、地元の人たちの協力が必要不可欠だと知りました。

今後は、自分たちの町のために何ができるかを考え、地元を高校生の力で盛り上げていきたいと思います。



## 第7分科会 参加者 14名

### 「食育」

私たちの生活の中で「食べる」ということは、根源的な活動のひとつです。つまり、「食べること」とは「生きること」なのです。しかし、最近ではジャンクフードの流行や孤食など食への関心が薄れているように感じました。そこで、食べることの幸せや健康的に食べることを考えもらいたいと思いました。

1日目は、みんなでピザとパンと野菜スープ作りをしました。生地作りは大学生に協力して頂き、私たちは野菜を切ってトッピングをしました。ピザ作りを通して、みんなで調理する楽しさを実感することが出来ました。また、作ったものを分科会の参加者と一緒に食べることで、みんなで食べる幸せを感じました。

2日目の午前中の前半は、ピザ作りの振り返りをしました。ピザの材料の効果を予想してもらい、食材はそれぞれ異なった重要な役割があることを学習しました。後半は、オブザーバーの八木さんに「食」に関してのお話をして頂きました。4人グループに分かれ、ワークシートを使って自分たちの食を見直し

報告者：花園麻璃亞（マリスト高校）

てもらいました。留学生のお話を聞き、国による食文化の違いをみることができました。その後、食の現状と熊本大学等の学食で取り組まれている「Table for two」（途上国の1人の給食支援が含まれている健康メニュー）の紹介があり、私たち高校生にできることは何かを考えもらいました。

午後からは、「スタミナ料理」「ダイエット料理」「バランスのとれた料理」「郷土料理」の4つのテーマにあったメニューを考えもらい、絵付きで画用紙にまとめてもらいました。第7分科会には、バングラデシュ、ネパール、韓国からの留学生がいたので、それぞれの食文化が出ていました。自分たちでメニューを考えることで、食をもっと身近に感じてもらえたかなと思います。

この3日間の活動を通して、参加者が食に興味を持ち、楽しく健康的に食べることをしてくれたら嬉しいです。また、自分たちに出来る取り組みを実践してくれることを願っています。



## 未来職道

### 「世界に対する視野を広げよう」

キャンプ2日の夜に、「未来職道」を行いました。ここでは、世界各地、または熊本で様々な分野で実際に活動されている方々のお話を聞くことができました。今回は8つの団体が参加して下さいました！今、様々なところで起こっている問題の解決には、全世界の人々の理解と協力が必要です。そのため、活動家の皆さんには熱意を持って参加者に説明しておられました。参加者の皆さんも真摯に聞いてくれて、より世界に対する視野が広がったと思います。



報告者：竹野友紹（鹿本高校）

世界で一体何が起きているのか？自分たちに出来ることは何か？

まず、そのことを考えることが、私たちにできる最善のことではないでしょうか？

最後に、このような機会を設けてくださった関係者の方々、事務局の皆さん、参加していただいた皆さん、ありがとうございました。



# 全体報告会

分科会での活動を他の参加者に発表する全体報告会はボラキャンの中で最も大切なものです。昨年と同様にポスターセッションによる報告会でグループに分かれて発表者、聞き手に回る形をとりました。

2日間の分科会で学び、考えたことを発表し、そこで出た質問に対して答えることで、一層考えを深めることができました。また、高校生が自分の思いや考えを他人に発表する機会はそう多くありません。良い機会になったと思います。

報告会が終わった後、最後にもう一度分科会で集まって問われた質問について話し合い、よりよい答えを探し出しました。初日の遠慮がちな雰囲気はほとんど無くなり、みんなが積極

的に話し合いに参加していました。

全体報告会を通して、各人の考えがさらに良いものに、深いものになりました。

中には「考えが変わった」「自分がすべきことが見つかった」「進路が変わるかもしれない」などという声もあり、ボラキャンは、こんなにも高校生に影響を与えているんだ!と感心しました。そして、私たちの∞の可能性を改めて感じ、大きな勇気をもらいました。

終了後には集合写真を取り合うなど、それぞれの分科会のまとまりを感じました。



# 閉会式

楽しかったボラキャンもいよいよ最終日となりました。緊張していた全体報告会も無事に終わり、後は閉会式を残すだけとなりました。会場にもなんとなく寂しい雰囲気が…すると!突然、会場にShakiraの『Waka Waka』が鳴り響きました。呆気にとられている参加者の横でアップテンポなミュージックに合わせて、ECが、踊りだす!続いて留学生!!さらに参加者のみんなが!!!会場前方のステージに集まり、輪になって一緒に踊りだしました。ダンス、ダンス、ダンス、、、会場のテンションは最高潮に!

ダンス終了後はそのままの状態で、閉会式へと移りました。

分科会ごとに参加者代表が一人ひとり感想や学んだことを発表する場面では、それぞれの達成感に溢れる力強い発表と、それを称える周りの温かい雰囲気が印象的でした。

そして最後は皆で肩を組み、ボラキャンのテーマソングであ

る『キセキの旅』を合唱。感動的な歌詞にのせて、3日間の活動写真が流れると、前年から準備してきたボラキャンに対する思い出が走馬灯のように頭の中を流れていました。「参加してよかったです!やってきてよかったです!」そう心から思えた瞬間でした。参加者の皆さんも、同じような気持ちだったのではと思います。

実は、閉会式冒頭のダンス、通称『Flash mob』は、従来の真面目な閉会式を、より楽しいものにしようとECが考案したサプライズでした。成功するかどうか不安もありましたが、当日は参加者の皆さんもノってくださいり成功裏に終わったことが、とても嬉しかったです。皆さん本当にありがとうございました。次回からのボラキャンでも、今回の経験を生かして、続けていくてほしいと思います。



## 留学生からの声 From a foreign student

### 熊本県立大学 楊航さん（中国）

今回のボランティアに参加して、本当に良かったと思います！

私は日本の高校生についてのイメージは、統一の制服を着て、情熱をいっぱい持っている若者でした。今回のボランティアで初めて日本の高校生と接しました、やはり、皆優しくて元気でした。そして、高校生の実行委員会にとても感心していました。皆若いですが、よほどのリーダーシップ、コミュニケーション力、や実行力を持っています、全員を仲良くさせながら、各分科会の研究テーマも順調に展開できました。

自分にとって、今回のキャンプは貴重な経験でした。楽しく勉強できましたし、友達も増えました。三日間はあっという間に終わりました、最後の日に、皆はお互いのバッグにメッセージを書き込む場面はとても感動しました。今回のキャンプで経験したことはきっと皆さん一生の宝物になると思います。



## SmileStation

スマイルステーション

報告者：家入弘樹（熊本北高校）

私たち「スマイルステーション（通称スマステ）」は、高校生で高校生ボランティアの輪を広げるという目的のもと毎月第一土曜日の午後2時から熊本市国際交流会館で活動しています。

現在活動としては、ボランティアに関する情報交換や身の回り、高校行事等の情報の共有を行っています。

これからは、ワークショップの開催やスマステとしてのイベント参加（国際交流SAKURA祭）を考えています。また、高校生の目線で上通のお店を紹介している地図「上通なう。」の情報の更新や、時には自分たちでボランティア活動を企画し、活動することもあります。

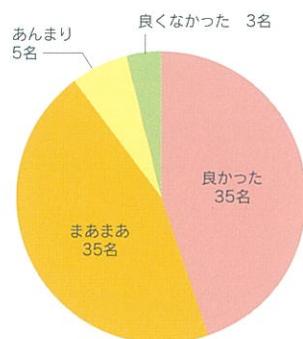
何かボランティア活動をしたいと思っている人、他の高校の友達を作りたいと思っている人は、気軽に参加してみて下さい。

<http://smilestation.blogzine.jp/>



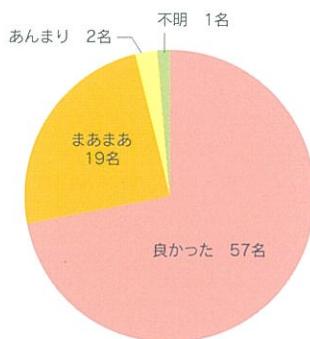
# アンケート報告 Questionnaire

## 基調講演はどうでしたか？



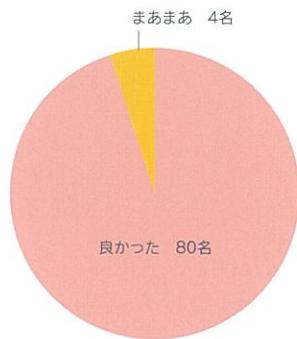
- ・ボランティアに興味を持った。
- ・ためになる話でおもしろかった。

## 全体交流会「高校生クイズ」「ハロウィンゲーム」はどうでしたか？



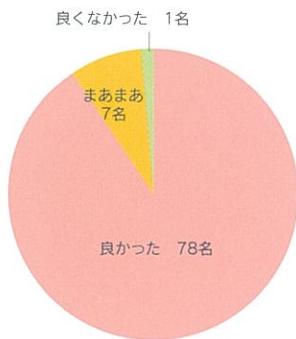
- ・盛り上がって楽しかった。
- ・仲良くなれて緊張がとけた。

## 分科会はどうでしたか？



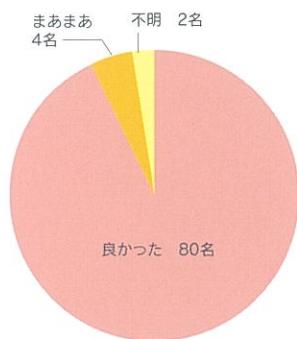
- ・いろんな活動をし視野が広がった。
- ・夢に向かって頑張ろうと思った。

## 未来職道はどうでしたか？



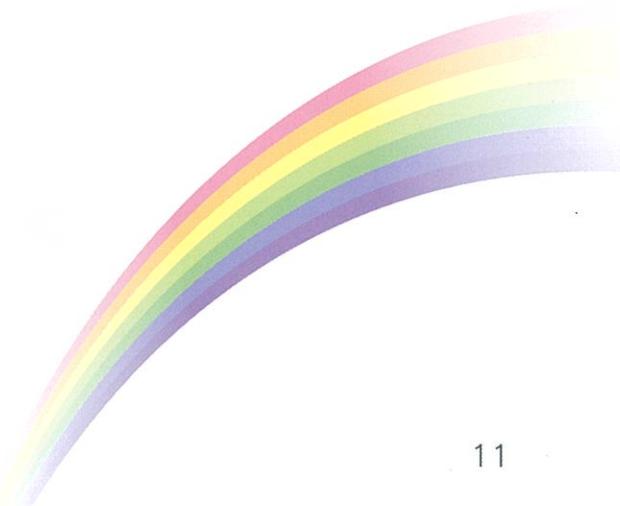
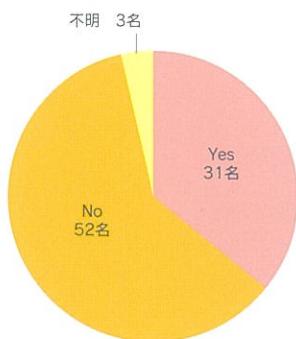
- ・いろいろな活動が知れてよかったです。
- ・多くの人と話せて楽しかった。

## 全体を通して今回のキャンプはどうでしたか？



- ・笑顔が絶えず楽しかった!!
- ・たくさんの人と出会えた。
- ・貴重な経験ができ充実した  
3日間だった。

## このキャンプの実行委員をやってみたいと思いますか？



**主催****第8回 国際ボランティアーウークキャンプ実行委員会****高校生実行委員会メンバー**

塩田 京介 熊本農業高等学校（実行委員長）  
 門岡 由起 済々黌高等学校（副実行委員長）  
 郭 怡 済々黌高等学校（副実行委員長）  
 田代 智也 宇土高等学校  
 竹野 友結 鹿本高等学校  
 川原 匠史 熊本高等学校  
 本山 徹 熊本高等学校  
 飯星 綾 熊本高等学校  
 井上 七海 熊本高等学校  
 甲斐理紗子 熊本高等学校  
 後藤 彩 熊本高等学校  
 鄭 淳元 熊本高等学校  
 福山優香里 熊本高等学校  
 家入 弘樹 熊本北高等学校  
 植田 伊和 熊本北高等学校  
 松永 侑也 熊本北高等学校  
 竹下 美鈴 熊本第一高等学校  
 永田 琥 信愛女学院高等学校  
 東 隆良 真和高等学校  
 伊集 千夏 真和高等学校  
 香川真里奈 真和高等学校  
 藤崎 雅美 真和高等学校  
 花園麻璃亞 熊本マリスト学園高等学校  
 隅部 光 熊本マリスト学園高等学校

**構成団体**

株式会社近代経営研究所、熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議  
 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団、株式会社日本リモナイト

**協賛・協力団体**

熊本学園大学、崇城大学、(株)秀拓、立命館アジア太平洋大学(APU)  
 独立行政法人国際協力機構九州国際センター

**後援**

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

**事務局**

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団  
 熊本市中央区花畠町4番18号 熊本市国際交流会館  
 TEL: 096-359-2121

**平成25年度 子どもゆめ基金助成事業**